

アジア太平洋の人をつなぎ学びを育てる

ACCU news

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

特集 半世紀に見つめるACCUの軌跡……2

ASPnetアクションリサーチプロジェクト……7

学びの共同体構築支援事業……8

日韓教職員交流事業……9

Pick up Information……10

ACCU INFORMATION……10

活動メモ……11

No. **413**
2021年6月号



ACCU

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 発行



半世紀に見つめる ACCUの軌跡

日本のユネスコ加盟70年目となる今年、ACCUは設立から50周年を迎えました。この機会を捉え、ACCUとご縁の深い方、様々な形でご支援くださっている皆様に、節目の年を迎えた今思うこと、「ACCUの軌跡」についてつづいていただきました。また、今日までのACCUの歩みを振り返るとともに、持続可能な社会の実現に寄与する活動を支援くださる「維持会員制度」と、SDGs(持続可能な開発目標)達成目標年に社会の担い手となる10代中心の若者を対象とした「50周年記念事業」についてご紹介いたします。

共に学び、共に生きる、ACCU

ユネスコ・アジア文化センター 理事長 田村 哲夫

2021年は、日本がユネスコ(国際連合教育科学文化機関)へ加盟して70周年という大きな節目を迎える年です。また、ACCUにとっては設立50周年の記念すべき年となります。1971年4月に財団法人ユネスコ・アジア文化センターは政府及び経済界の協力の下に設立され、その後2011年には公益財団法人へ移行しました。この50年の長い年月は決して平坦なものではなく、何度も変革を遂げながらもユネスコが提唱してきたその時代ごとの価値教育を教育現場につなげるべく着実に歩みを進めてまいりました。常に変化していくACCUですが、変わらず大切にしていることが二つあります。一つは、「国連の良心^{*}」とされるユネスコが掲げる基本理念を堅持していることです。ユネスコは戦後70余年来にわたり、その時代の人類社会が直面する課題を解決するための指針となる様々な価値教育を提唱してきました。「国際理解教育(EIU)」、「万人のための教育(EFA)」、「持続可能な開発のための教育(ESD)」、そして「持続可能な開発のための教育:SDGs達成に向けて(ESD

for 2030)」等です。ACCUは、ユネスコの基本理念に基づいた指針を常に大切にしていまいりました。二つ目は、互いを尊重し、共に作り上げていく姿勢です。ACCUは「共同(協働)事業方式」という事業運営形態を取ることにより、官民協働やステークホルダー間の協働、参加型といった言葉が一般的になる前から、アジア太平洋地域のユネスコ加盟国と協働で事業を推進してきました。各国、各機関・団体が対等な立場で相互理解を深めながら協力して事業を実施することが特徴であり、いわゆる二国間の経済協力や国際機関の援助とは基本的に異なるアプローチです。協働では基本的に異なるアプローチです。協働では互いに作り出した成果を分かち合うシステムといえます。ACCUは事業遂行上の「世話役:サーバントリーダー」として、文化の多様性を互いに尊重し、相互理解を深めながら問題意識を共有して事業を推進しております。先の見通せない今、ACCUはユネスコの基本理念に基づき、多様な文化や価値観を包括することで21世紀の新しい課



題に応ずるべく、一層の努力を重ねてまいります。わたくしどもの活動を支援くださる皆様に、改めて厚く御礼申し上げますとともに、なお一層のご支援とご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 理事長(2010年~)、学校法人渋谷教育学園理事長、学校法人青葉学園・東京医療保健大学・大学院理事長、教員養成評価機構理事長、他。文部科学省中央教育審議会委員など各種審議会委員、日本私立中等高等学校連合会長、日本ユネスコ国内委員会会長(2008年12月~2013年11月)を歴任。

持続可能な開発目標(SDGs)採択
世界教育フォーラム開催
ユネスコスクール世界大会
国連ESDの10年ユネスコ世界会議
ESD-CLC国際会議開催

国連ESDの10年・中間年
ESD世界会議開催

「国連持続可能な開発のための
教育(ESD)の10年」開始

国連ミレニアム開発目標
(MDGs)採択

ユネスコ「寛容原則宣言」
国連寛容年のための
フォローアップ計画」採択

国連「国際識字年」制定
万人のための教育(EFA)
世界会議開催

「アジア太平洋地域の
万人のための教育計画:
APPEAL」開始



『ミナの実顔』



児童書・教材

ユネスコ「国際識字デー
(9月8日)」制定

アジアにおける初等教育普及計画
「カラチプラン」策定

ユネスコスクール(ASPnet)
事業開始

日本がユネスコに加盟○1951

2021
2020
2019
2018
2017
2016
2015
2014
2013
2012
2011
2010
2009
2008
2007
2006
2005
2004
2003
2002
2001
2000
1999
1998
1997
1996
1995
1994
1993
1992
1991
1990
1989
1988
1987
1986
1985
1984
1983
1982
1981
1980
1979
1978
1977
1976
1975
1974
1973
1972
1971
1965
1960
1953
1951

●4月26日 ACCU設立50周年
●50周年記念事業の実施
●UNESCO APCEIUとMOU締結
●文部科学省 初等中等教職員国際交流事業 開始
●千代田区神田神保町にACCU事務所を移転

●GAP⁵キーパーターナーとして活動開始
●「HAPPY SCHOOLS!プロジェクト」開始

●高校模擬国連事業 開始
●財団法人から公益財団法人に移行
●ユネスコESD国際協働学習「Riceプロジェクト」開始
●フルブライト・ジャパンESD日米教員交流プログラム 開始

●ユネスコスクール支援事業 開始
●識字学習支援事業「SMILE Asiaプロジェクト」開始

●ユネスコと共にアジア太平洋地域の
ESD普及・推進活動を開始

●ユネスコの「国際識字賞」を受賞
●UNU⁴国際教育交流事業 開始

●ACCU・ユネスコ青年交流信託基金事業 開始
●文化遺産保護協力事務所(奈良) 開所
●識字データベースのインターネット公開
●環境教育教材『PLANET』制作開始

●ユネスコ・ACCU世界写真コンテスト 開催
●アジア各国でLRC事業 開始

●識字アニメーション『ミナの実顔』を制作
●ユネスコAPPREB事業
(読書推進・図書開発)への協力開始
●国際識字年記念絵本の制作

●ユネスコ総会(パリ)でユネスコ主催の
「ACCU展」開催
●農村識字専門家セミナー
●農村識字巡回講師団派遣
●ACCU識字賞 等の開始

●識字協力事業 開始

●出版技術講師派遣
●音楽・視覚教材・現代美術作品共同制作
●ユネスコ活動指導者派遣
●野間絵本原画コンクール 等の実施

●児童書共同出版事業 開始

1971○4月26日 ACCU 設立



ACCU神楽坂(旧)
オフィスビル外観

ACCUの軌跡 —教育・文化で 人や地域をつなぐ



高校模擬国連国際大会参加者(2019年)



ユネスコスクール公式ウェブサイト



SMILE学習者



中国教職員招へい
プログラム
(2005年)

*1 アジア・太平洋地域読書新興・図書開発協同プログラム: Asia-Pacific Co-operative Programme in Reading Promotion and Book Development
*2 女性のための識字教育センター: Literacy Resource Centres for Girls and Women
*3 Package Learning Materials on Environment
*4 国際連合大学: United Nations University
*5 Supporting Maternal and Child Health Improvement and Building Literate Environment
*6 ユネスコ ESDに関するグローバル・アクション・プログラム
*7 ユネスコ アジア太平洋国際理解教育センター: Asia-Pacific Centre of Education for International Understanding
*8 基本合意書: Memorandum of Understanding
※上記年表には出来事・活動の一部を掲載しています。また、終了したのものも含まれています。

*「ユネスコで世界を読む—21世紀にひきつぐ国連の良心」改訂新版(日本ユネスコ協会連盟 編集),古今書院より

活動を通して連携する 皆様からのメッセージ

ユネスコのうたう「平和は、人類の英知と精神的な連携の上に築かれるものである」という精神の下、ACCUが今日まで活動を続けることができた背景には、教育・文化の分野において様々な形で活動されている方、その道の専門家、国際機関、教育関係機関等々、多くの方のご協力がありました。ここでは、50年の中でご縁が生まれ、連携・ご協力くださっている皆様に、ご自身とACCUとの関わり、ACCUのこれから等について語っていただきました。

平和文化に向けて



中野 良子

俳優。その活動と共に日本・米国・仏国等の人と相互理解に励む。国連平和年を機に中国と太陽熱構造の学校を建設。

ユネスコ・アジア文化センターが設立50周年を迎えられ、これまでの地道なご努力に敬服いたします。

今後、貴重なご経験を当時の社会状況を交えてお話いただくことで、ACCUの存在が親しみをもって覚えていただけるのではないかと思います。また、これまでに参加された国内外の方々にも今、思われていることを話していただくのも、お互いの特徴が以前より理解でき、時代の変化なども身近に感じられるのではないのでしょうか。

これまで皆様が試みてこられた事柄は、アジアの人々と豊かな社会の基盤作りをし、まるで心の畑を耕すように平和文化を育み合う力となっていられることでしょうか。これからもご活躍を期待いたしております。

世代と地域を結び教育格差是正を



斎藤 珠里

ユネスコ バリ本部ASPnet課長、ユネスコスクール国際コーディネーター。過去に松浦ユネスコ元事務局長の広報官、ESD課に務める。元朝日新聞記者。

新型コロナウイルスの感染拡大が続き学校閉鎖や遠隔授業によって世界規模で教育格差が生まれている中、ユネスコの教育の理念を支え、持続可能な社会の実現に寄与してきたACCUの役割は重要性を増すでしょう。具体的には、ESD foodプロジェクトや気候変動プロジェクトで成果を挙げた学校と地域の連携は、ノンフォーマル・フォーマルの垣根を越え、教育格差是正へのカギを握ると思います。昨年開催している教員養成機関を対象としたASPnet^{*1}会合では、日本のユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)に関心が集まっています。学校内だけでは対応できない教育の在り方が問われる今日、世代を超え地域ぐるみで支え合ってきた日本に学ぶ点は多いです。ACCUには日本から世界へ向けた、更なる発信力や企画力を求めています。

アジアから世界の教育に貢献する



黒田 一雄

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科長・教授。JICA緒方貞子平和開発研究所客員研究員。

ACCUは最初の30年間、識字・ノンフォーマル教育の分野でアジア各国の教育省をリードし、この分野の発展に大きな貢献を果たし、2000年代にはESDやアジアの教職員の国際交流においても新しい独自の貢献の可能性を着実に開拓してきました。それは、初等教育の量的拡大にあまりに特化したEFA/MDGsの国際潮流に、教育の平和や持続可能性への役割の大切さ・国際社会が協働して教育の目的や内容を考えることの重要性を発信することにもなったと思います。2015年に採択されたSDGsの目標4には、平和の文化や地球市民性・ESDの推進が盛り込まれました。50周年を迎えたACCUには引き続き、アジアのユネスコ関係機関と連携しながら、形成されつつある教育のグローバルガバナンスにアジアから発信・貢献する役割を大いに期待しています。

教育を世界に開く窓口ACCU



手島 利夫

「ESD、SDGs推進研究室」を主宰。江東区立東雲小学校、八名川小学校の元校長としてESDの推進に尽力。

私は、2006年に初めてACCUの「韓国政府日本教職員招へいプログラム」に参加し、それを契機に海外から来日する実に多くの教育関係者の小学校への訪問を受け入れてきました。ACCUの方が世界から訪問者を連れてこられるたびに、私はプレゼンを作り直し、自校の子どもたちの学ぶ姿や指導する教員の姿を通じて日本の教育についてESDの視点から語り続けてきました。次第に、日本のESDについて語るだけでなく、世界の教育関係者を巻き込んでESDを推進していくための方策を考えるようになっていきました。同時に、日本国内のESD推進についても多くの方々と語り合い、力を合わせて取り組んできました。ACCUとの出会いや応援を受けて、ESDの推進に関わられてきたことに感謝しています。

質の高いオーケストラ教育普及を



松田 義幸

東京小石川ロータリークラブ会員、尚美学園大学名誉教授

私ども東京小石川ロータリークラブ(RC)とACCUは長年ACCU識字事業への支援やユネスコ平和教育支援としてRCが開催している「小石川櫻花音楽祭」の後援等で深く関わっています。同音楽祭と東京小石川RCの50周年記念式典はコロナ禍により令和4年3月まで延期となりましたが、現在国連とユネスコが推進している「SDGs & Quality Education for All」運動にACCU主導の下、当RCが参加し、「Quality Orchestra Education for All」展開の契機となって継続事業になることを期待しています。

ACCUへの感謝と期待



京田 功

日本語・韓国語講師

私とACCUの出会いはその図書室^{*2}で本を閲覧したことです。私が大学で留学生に日本語を教えていた頃、図書室に一つの日本語の本をアジア各国の言葉に訳した優れた対話本が揃っていて留学生に直接自国の言葉で教えることができ、大きな助けとなりました。以来図書室の利用が増え、維持会員になりました。ACCUの活動は貧困から抜け出せずにいる国々の識字率向上を支援する等アジアの発展に大きな意味を持つものです。私もその一助となればと思っています。

アジアの子どもに良質な本や教材を届ける——ACCU設立当初、この想いの実現に向け各国専門家が集結してそれぞれが平等な立場で構想・企画し、材料等の提供を行い、その過程で「共有意識・実情反映・文化の相互理解」という三つの効果が生まれました。これは人と人、国や地域をつなぐACCUの基本姿勢として現在まで引き継がれています。こうしたACCUの活動にご理解・ご支援いただいている皆様に、改めてACCUへの思いをつづっていただきました。

今も宝、一期一会の出会いと思い出



すぎはらちゆん(本名:杉原 由美子)

映像作家、歌舞伎解説者

撮影:川名マッキー

2008年にASPnetのHP構築のためACCUに採用され、それから5年間、交流事業などにも携わりました。その間に学んだUNESCOの理念やプログラムで得た経験は、現在の仕事であるコンテンツ制作にも大きく影響しています。そのご縁で退職後に維持会員となりました。ACCUが多様なバックグラウンドを持つ人々の出会いとつながりをサポートし、それをきっかけに、平和への願いやSDGsを実現する知恵が、どこまでも波紋のように広がってゆくことを期待しています。

ユネスコ、我が人生



郷農 彬子

(株)バイリンガル・グループ代表取締役社長

1967年に文部省に雇われ、日本ユネスコ国内委員会に配属されました。なんとという幸運！初めてユネスコ憲章に触れた時は感動に震えました。素晴らしい同僚にも恵まれ様々な国際会議に携わりました。結婚後数年間欧米で過ごし、帰国後ACCUが新設されていました。元上司の伊藤良二^{*3}所長や笹岡太一様から可愛がっていただいた御恩は今も尽きません。ユネスコなくして我が人生なし、です。このような職場は他にないかもしれません。ぜひ若い方々もユネスコの理想と共に燃えてほしいです。

(写真:エリザベス・ローズ様と1969年11月@学士会館での結婚式にて)

*1 ユネスコスクール

*2 ACCUオフィスが神楽坂にあった頃のライブラリー、現オフィスの図書棚

*3 元ACCU理事長

ご支援いただいている
皆様からのメッセージ

維持会員制度のご紹介

皆様のご支援で続く『未来』

ACCUの維持会員制度は1972年に開始し、ACCUの事業目的にご理解・ご関心を寄せてくださる法人そして個人の皆様のご入会くださることで、時代や各ニーズを反映させた事業の推進につながっています。また、維持会員の皆様からの継続的なご支援は、持続可能な社会の実現に向けた取組に活用されています。

機関紙等の広報媒体を通してACCUの活動を分かりやすくご紹介するとともに、皆様とのコミュニケーションを深める機会も検討し、より一層のご理解やご支援につながるよう努めてまいります。

維持会費	
会員種別	会費
法人	50,000円 / 1口
一般(個人)	10,000円 / 1口
学生	5,000円 / 1口

ACCUの維持会費は税制上の優遇措置(寄附金控除の適用)を受けることができます!

詳しくはこちら <https://www.accu.or.jp/support/member/>



会員特典

機関紙
『ACCUnews』
をお届けします!

制作物を
割引でご購入
いただけます!

*1 年度ごとに一区切りとしております。2月中に会費をお支払いいただいた場合、当該年度の会員様としてご入会登録いたします。
*2 詳細は、お住いの自治体ホームページ等にてご確認ください。



50周年記念事業のご紹介

若者のエンパワメント——世界へ

『Voice of Youth Empowerment 2021～地球の未来は、キミが変える～』と題し、残り10年となったSDGsの達成とその先を見据え、若者が世界に発信するプラットフォームを立ち上げるとともに、“SDGs”や“持続可能な社会”をテーマに様々な活動を実施します。

8月22日(日)のSDGs Agora(公開セミナー・オンライン配信あり)では、ゲスト講師やプログラムサポーターと共に

に持続可能な社会の在り方を考えます。10月10日(日)には選考を通過した参加者対象の事前ワークショップ、11月21日(日)にはFuture Voices(プレゼンテーション・オンライン配信あり)を開催し、アジア太平洋地域の若者のありのままの“声”を広く発信します。本プログラムを通して、SDGs達成期限とされる2030年以降の持続可能な社会を率いていく若者同士の学び合いの機会を創出し、

10代中心の若者対象の本事業。国際・地域社会問題に主体的に解決行動を起こせる人材を育成するとともに、若者が発信することで社会が動く機運の醸成、アジア太平洋地域の相互理解と友好促進、また、SDGs達成への動きを加速させ、平和で持続可能な社会の実現を最終アウトカムとします。



世界に彼らの“声”を届け、エンパワメントしていくことを目指します。なお、プログラムの実施には、50周年記念基金(P.10)を活用いたします。

※本プログラムは新型コロナウイルス感染症の流行状況等に応じて、内容を変更することがございます。

詳しくはこちら <https://www.accu.or.jp/>

～ ACCUを応援してくださっている皆様へ～

この一年、様々なことが起きておりますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。いつもありがとうございます。ACCUは、維持会員の皆様やご寄付くださる法人、個人の皆様からのご支援により事業を運営しております。設立当初から継続してご支援して下さる方々、事業を通して関心をもってください維持会員になってくださった方々、教育の専門家の方々、あるいはACCUのOBやOG、本当に多様で多彩な皆様に支えられて50年という節目を迎えることができました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。これからもACCUを、何卒よろしくお願い申し上げます。 ACCU職員一同

ASPnet アクションリサーチプロジェクト

アジア太平洋の教員主体 ESD実践研究プロジェクト

教育協力部 大類 由貴



「ユネスコスクールネットワーク：アジア太平洋におけるSDGs達成のための学校の役割に関する協働型アクションリサーチ」プロジェクトは、ユネスコバンコク事務所により発足しました。本事業は、SDGsの目標4の教育の中でも、その他すべてのSDGsのゴール達成のためのカギとなるSDG4.7、とりわけ持続可能な開発のための教育(ESD)に焦点を当てています。本事業では、日本、タイ、ベトナムの3か国のユネスコスクール(中学校)を対象に、学校における学習指導・学習を向上するために教師を支援する地域の協働型アクションリサーチを策定、実施することを目標としています。今回、ACCUは日本での事業の国内調整を担当することとなりました。

アクションリサーチでは、「計画」、「実践」、「観察」、「振り返り」の4つのステージを繰り返し行いながら、自校の活動の改善と教師の能力を向上させていきます。(詳細は図を参照)

まず初めに本事業で用いるコンピテンシー(認知、社会情動的、行動)をどのようにカリキュラム、学習指導、評価と連携させるか、どのようなギャップがあるかを明らかにし、自校の活動を改善するための「計画」を立てます。その後、各参加校は自校の活動計画を基に本事業に関わる研究者(リサーチャー)や地域のステークホルダー等と連携しながら「実践」します。その際、ESDで重視されている児童・生徒、教員、学校が変容するプロセスを「観察」し、データ・情報を収集しながら、実践を重ねていきます。実践では参加3か国の生徒同士の交流や対話も行われます。実践後は、生徒・教員・コミュニティの主要なステークホルダー、リサーチャーと共に「振り返り」と活動による変化を自己評価します。そして、振り返りと評価で明らかになった課題やギャップに対処するため、実践で学んだことを活かしながら、新しい「計画」を立てていきます。

本事業では、アクションリサーチを各参加校で始める前に、リサーチャーとして参加している宮城教育大学と

岡山大学と共同で、各参加校の活動状況を把握するための事前調査を行いました。3月25日には、第1回アジア地域ミーティングがオンラインで開催され、3か国がそれぞれ実施した事前調査の結果を共有しました。また3か国での交流も含めた今後の活動の確認を行いました。

5月11日には日本の参加校3校とリサーチャーと共にオンラインの国内ワークショップを開催しました。

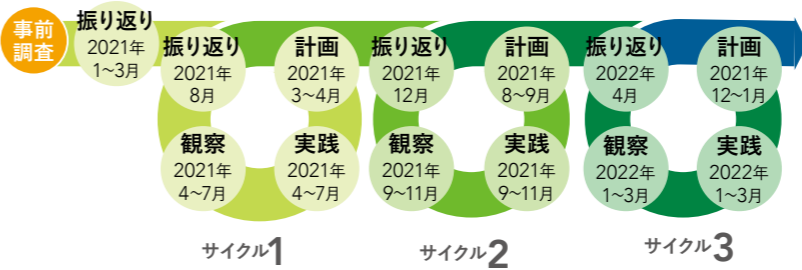
プロジェクトの概要やアクションリサーチの枠組みの確認、自己紹介を兼ねた各参加校からの活動発表をした後、参加校毎に今後の活動計画と海外の参加校との生徒同士の交流計画を立てました。

今後参加校がどのような活動をしていくか、お楽しみに!

- 国内ワークショップ参加校**
- 本事業研究者(リサーチャー)
 - 宮城教育大学(宮城県)
 - 岡山大学(岡山県)
 - 本事業参加校
 - 気仙沼市立階上中学校(宮城県)
 - 大田区立大森第六中学校(東京都)
 - 岡山大学教育学部附属中学校(岡山県)

DATA
実施期間: ①3月25日(木) ②4月8日(木) ③5月11日(火)
参加者: ①47名(日本、タイ、ベトナム、フランス)②約20名(日本、タイ、ベトナム)③約20名
開催場所: オンライン

ユネスコのアクションリサーチサイクルとタイムライン案



第1回アジア地域ミーティングの様子(©ユネスコバンコク事務所)

学びの共同体構築支援事業

ESD推進のための地域の多様な協働の在り方

教育協力部 永里 好絵

「持続可能な地域づくりを推進する学びの共同体構築支援」事業は、バングラデシュ、インド、日本、フィリピンのパートナー団体と共に2019年に始動しました。「コレクティブインパクト」という概念に代表される、マルチステークホルダー間の「協働」の概念を教育セクターに応用し、学校教育や高等教育機関による教師教育等のフォーマル教育、公民館やCLC等によるノンフォーマル教育、NGOやNPOによる市民社会の実践など、これまでサブセクターごとに取り組みられることの多かったESD（持続可能な開発のための教育）事業を、「持続可能な地域づくり」という共通の目的の下に協働しながら推進していくことを目的としています。

本事業1年目は、事業実施国とパートナー団体の選定から始まり、参加各国でマルチステークホルダーによる地域づくりの事例収集を行いました。事業終盤にバングラデシュのダッカで開催したワーキンググループ会合では、事例の比較や検証だけでなく、バングラデシュのパートナー団体による多目的教育拠点の現地視察も行いました。成果としては、アジア4か国・計7つの事例の収集と、それらの事例を基に国内外で現存する教育セクターの地域づくりから見えてきた重要な要素をキーワードとして抽出し、包括的な学びの共同体づくりのためのフレームワークのゼロドラフトを作成しました。一方で、国や地域の文脈に応じて事情が大きく異なるため、どの事例にも当てはまるような枠組みを作ることの難しさを実感しました。

そこで2年目は、1年目にキーワードとして見えてきたコレクティブインパクトにおいて、「学びを深めること」や「パワーバランスを保つ」ためには、地域づくりの協働においてどのような手法が実践的に有効なのか議論



2019年度第1回ワーキンググループ会合in東京

を深めました。新型コロナウイルス感染症の影響により、会合等はオンラインでの開催となりましたが、それにより国内外のパートナー団体だけでなく、有識者の方々にもご参加いただくことができ、有意義な意見交換の場となりました。成果としては、収集した事例を分析・考察するとともに事例集として発行し、また、ゼロドラフトを基にしたフレームワークや、実践的な手法をまとめたモジュールのドラフトを作成することができました。今後の事業実施スケジュールについては、パートナー団体とのネットワークを通じた議論を継続し、フィールドに近く、汎用性の高いフレームワークやモジュールの完成を目指していく予定です。



2020年度オンラインワークショップの様子



アジア4か国のパートナー団体の協力の下、日本語版と英語版を発行しました。持続可能な地域づくりに向けて、各国・地域が持つ課題に対して、様々な困難にぶつかりながらも、共に協力し、学び合いながら活動をした記録です。これから地域づくりに取り組んでいきたいという想いをお持ちの方々への後押しになればと思います。

日韓教職員交流事業

次の20年に向けて日韓の新たな学び合いが開始!

国際教育交流部 岡野 晃一

20周年記念ポスター・特設 web サイト

日本と韓国の教職員交流が20周年を迎えることを記念し、過去の日韓教職員交流事業参加者から「コロナ禍で頑張る日韓の教職員を励ます未来を見据えたメッセージ」を集め、ポスターを制作しました。応募は韓两国から募り、計80を超えるメッセージが寄せられています。コロナ以前に対面で交流した際の温かなやりとりが綴られており、コロナ禍において懸命に教育活動に取り組み、互いを思いやるメッセージに包まれています。

また、初等中等教職員国際交流事業の参加者・関係者専用SNS：TREE内に、特設Webサイトを開設しました。元文部大臣および外務大臣 現参議院議員の中曽根弘文氏、元教育部長官の文龍麟氏からお祝いのメッセージを頂くとともに、日韓教職員交流が始まった経緯や20年間の交流を時系列で紹介するページに加えて、過去20年間に日韓教職員交流事業に参加した方々の報告書から一部抜粋した文章を掲載しています。

高等学校訪問・小中学校教職員交流会

2021年1月～2月にかけて、高等学校訪問と小中学校教職員交流会を組み合わせてオンラインで実施しました。高等学校訪問では、30名の韓国教職員が10名ずつのグループに分かれて、1月26日に長野県上田高等学校、1月29日に日本体育大学柏高等学校、2月2日に千葉市立稲毛高等学校を訪れ、教職員のみならず生徒とも交流を深めました。日韓の共通点や違いを確認し合うとともに、コロナ禍での対応策や語学学習・現在の課題について幅広い話題を意見交換し、さらに今後の交流についても語ることができました。1月31日の小中学校教職員交流会では、日韓教職員が4グループに分かれ(1グループ：韓国4名・日本2名)、「コロナ禍における教育活動」について現状と課題、解決策について、150分間というディスカッション時間を設けました。体験に基づく豊富な切り口があることから、議論・意見が尽きることなく、多くの学び合いがなされました。

DATA
 実施期間：2021年1月～2月
 参加者：韓国教職員50名、日本教職員41名、日本生徒102名
 開催場所：オンライン



20周年記念ポスター



20周年記念特設webサイト



日本体育大学 柏高等学校



小中学校教職員交流会

ACCU 50周年記念基金のご案内



ACCUは、ユネスコからの打診を受け、アジア太平洋地域の教育と文化の相互交流を促進する中核的センターとして、1971年に日本政府と出版界等民間の協力により設立されました。以来、日本を拠点にユネスコをはじめとする国際機関・政府教育機関・産業界・地域社会と協力して持続可能な社会の実現に貢献する事業を進めてきました。多くの皆様にご理解とご協力、温かいご支援を賜りましたことに改めて御礼申し上げます。

2021年、ACCUは設立50周年を迎え、この節目に本基金を開設し広くご寄付のご協力を仰ぎたく存じます^{*1}。ご支援は、新規事業「Voice of Youth Empowerment 2021～地球の未来は、キミが変える～」(P.6)の実施、また、ユネスコスクール、識字学習支援、教職員及び青少年の国際交流、学校や地域等でのESD・SDGs推進等ACCUの各事業にて大切に活用させていただきます。

コロナ禍により教育格差が広がり、学

ぶ場が失われている現在、誰もが自らの意思で参加できる学びの場を提供することは大切です。ACCUは今後も様々なアプローチで活動してまいります。



Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

「50周年記念基金」

募集期間 2021年4月1日～2023年3月31日
ご寄付額 個人2万円/1口 法人20万円/1口
ご寄付の御礼 「50周年記念誌」の謹呈^{*2}
 同誌へのご氏名/団体名・ロゴ等の掲載

お振込先

- ①三菱UFJ銀行(支店名 虎ノ門) 口座番号:(普)4125516
 - ②三井住友銀行(支店名 東京公務部) 口座番号:(普)3021322
- 口座名義(①②共通): コウエイ イダ ノホジ ヌネスコアジア センター ※すべて半角

詳細は、下記「50周年記念基金」のページをご確認ください。
<https://www.accu.or.jp/support/50th-anniversary/>



*1 ACCUへのご寄付は税制上の優遇措置(寄附金控除の適用)が受けられます。
 *2 印刷の都合上2021年8月31日までのご寄付で、許可を頂いた方のみとなります。



ACCU INFORMATION

『月刊文藝春秋』にACCU広告掲載!

設立50周年というこの機会に、ACCUは広報活動を強化しています。その一環として、『月刊文藝春秋5月号 遺贈・寄付特集』に、ACCUの広告が掲載されました。ACCUを広く知っていただくため、ACCUの設立背景や活動について、

写真を交えてご紹介しています。また、11月号(10月9日発行予定)の同特集に、より詳細な情報の掲載を予定しております。ご関心のある方は下記ページをご覧ください。

『月刊文藝春秋』最新号～バックナンバー
<https://bunshun.jp/category/gekkan-bunshun>



ACCU 活動メモ

2021年2月～6月 ①実施期間 ②主催・共催団体名 ③開催場所 ④参加国、参加者数

愛媛大学付属高等学校 WWL 報告会

①2/5(金)②愛媛大学付属高等学校③オンライン
 ④約20名

令和2年度信州 ESD コンソーシアム 成果発表会 & 交流会

①2/6(土)②信州ESDコンソーシアム③オンライン
 ④小学校12校、中学校5校、高校1校、卒業生(大学生)3名、ACCU2名

第3回市野高校難民支援の夕べ

①2/12(金)②学校法人市野学園名古屋経済大学市野高等学校③オンライン④名古屋市民約50名

第7回ユネスコスクールオンライン 意見交換会

①2/16(火)②ACCU③オンライン④10名

「持続可能な地域づくりを推進する 学びの共同体構築支援」ワークショップ

①2/18(木)②ACCU③オンライン④21名(インド、バングラデシュ、フィリピン、日本)

ESD コンソーシアム愛知 ユネスコスクール ESD・SDGs 活動成果発表会

①3/13(土)②ESDコンソーシアム愛知、東海学園大学ともいき教養教育機構、日本教材学会東海・近畿・北陸支部③東海大学名古屋キャンパス④60名

第8回ユネスコスクールオンライン 意見交換会

①3/16(火)②ACCU③オンライン④25名

ASPnet アクションリサーチ 第一回地域ミーティング

①3/25(木)②ユネスコバンコク事務所③オンライン
 ④47名(日本、タイ、ベトナム、フランス)

ASPnet アクションリサーチ 第一回フォローアップミーティング

①4/8(木)②ユネスコバンコク事務所③オンライン④約20名(日本、タイ、ベトナム)

高校模擬国連国際大会(ニューヨーク大会) 第15回日本代表団派遣・報告会

①5/6(木)-6/20(日)②ACCU、JCGC③オンライン
 ④派遣生7校14名

ASPnet アクションリサーチ 国内ワークショップ

①5/11(火)②ACCU③オンライン④約20名

異文化間教育学会第42回大会・日本国際理解教育学会第30回研究大会 合同大会

①6/12(土)、6/13(日)②異文化間教育学会、日本国際理解教育学会、玉川大学、ACCU(協力)③オンライン④研究者(大学教員・研究員)、初等中等教職員、大学院生、行政関係・NPO関係者300名(予定)

ASPUnivNet 第一回運営委員会

①6/14(月)②ACCU③オンライン④約10名



ACCU INFORMATION

“SMILE”でつながる——山内ジョージ展に展示協力

2月27日～5月27日に東京都の豊島区立中央図書館で開催された、山内ジョージ展「マンガから世界の文字絵へ」に、ACCUが後援・展示協力しました。ひらがな・アルファベット等の文字をイラストで表現する山内氏の「文字絵」は、カンボジアの子どもや女性の識字率向上のためクメール文字でも制作されています。ACCUの識字学習支援事業

「SMILE Asiaプロジェクト」の教材として現地NGOが用意した識字表にも使用され、ACCUnews411号『SMILE』特集の中の「学習キット」写真が同区図書課の方の目に留まったことから、今回の展示協力につながりました。学びを応援したいという思いが結びついたことを嬉しく思うとともに、これからも活動を広げ深めていくという目標を新たにしました。



ACCU INFORMATION

昨年度春に ACCUスタッフになりました!

入社初年度は“Withコロナ”で試行錯誤の1年でしたが、オン・オフ双方の良さを見出しながら業務にあたりました。50年目を迎えた今年には広報を一層強化し、健康に気をつけて頑張っています。

総務部 広報 渡辺



ACCUに入職して約1年、周りの皆さんに助けをいただきながら、刺激のある毎日を送っています。今後も楽しみながら精一杯仕事に取り組み、教育協力事業の発展に少しでも貢献できるよう尽力いたします。

教育協力部 永里